社会福祉法人さぽうと２１

平成 27（2015）年度　事業報告

「こんな世界もあるんだ！」

14 名の社会人（一日出張講師）から、お仕事の話を聞く学生たち

外国にルーツもつ学生の『働き方』発見セミナー（2015 年８月６日 さぽうと２１夏期研修会）

社会福祉法人さぽうと２１

〒141-0021　東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル６階

TEL：03-5449-1331 ／ FAX：03-5449-1332

E-mail：info@support21.or.jp ／ URL：http://support21.or.jp/

ー 目 次 ー

平成 27 年度　事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・ **P.　1**

生計困難者に対する生活援助事業 ・・・・・・・・ **P.　2**

1）生活支援プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

2）坪井一郎・仁子 学生支援プログラム ・・・・ P. 4

3）学習支援室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8

生計困難者に対する相談事業 ・・・・・・・・・・・ **P. 16**

1）東日本大震災関連支援事業 ・・・・・・・・・・・ （ 別冊 ）

広報活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **P. 17**

その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **P. 21**

1）企業・助成金による活動の充実 ・・・・・・・・・ P. 21

社会福祉法人さぽうとにじゅういち

平成 27 (2015) 年度　事業報告

2015 年度は、631 件の個人、10 団体・企業の方々に、日本に「定住」する難民などの外国出身者への教育や自立に結びつくための支援活動に、ご寄付や会費等を通じてお力添えをいただきました。
活動を支えてくださる会員・寄付者の皆さま、ボランティアの皆さま、事業実施にあたりご協力賜っている皆さま方に、改めまして、心より御礼申し上げます。

本年度は、欧州各国を始め、急増するシリア難民への人道的配慮のあり方について、国際的に問われる年でもありました。当会では、シリア及びその周辺国で活動する姉妹団体 AAR Japan［認定 NPO 法人難民を助ける会］（以下 AAR）や、国内で難民支援を行う団体と情報を共有しつつ、シリア難民の方に日本語学習の機会を提供しました。

今後も支援を必要とされる方々のより良い「定住」に結びつける活動ができるよう努めてまいりますので、引き続き、温かいご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

本年度も生活援助事業の一環として「生活支援プログラム」と「坪井一郎・仁子学生支援プログラム(坪井基金)」、「学習支援室」を運営しました。

「**生活支援プログラム**」及び「**坪井基金**」では、60 名に学業継続のための生活支援金を支給しました。また、就職活動や進路選択に役立てることができるよう、「外国にルーツをもつ学生の『働き方』発見セミナー」と題し、14 名の企業・団体職員、OB/OG にご協力いただき、社会人の方からお話を聞く機会を設けました。

「**学習支援室**」では、毎週土曜日の教室運営の他、本年度も文化庁の日本語教育委託事業を実施し、ボランティア講師及び受講生向けの各種研修の実施、初級者向けの日本語教室の開催、教材作成という三つの取り組みを行いました。

「**東日本大震災関連支援事業**」は、震災発生から 5 年を迎えるにあたり、AAR と協働で「障がい者福祉作業所『かたつむり』再建プロジェクト」が進行しております。津波で流出後、未だ浸水地域のプレハブで活動を継続している同施設の移転を支援いたします。
震災発生時より、毎月継続して店頭での募金活動を実施していただいております、サンキョー株式会社様には、この場をお借りし、改めまして御礼申し上げます。

以下に 平成 27(2015)年度 に実施した各事業の活動内容を報告いたします。

Ⅰ．生計困難者に対する生活援助事業

（1）生活支援プログラム

① 生活支援金の支給〔就学支援〕

高校や大学、専門学校に在籍するインドシナ難民や条約難民、中国帰国者及び日系定住者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、「生活支援金」を支給した。

支援金の支給は、2 か月に 1 度、銀行振込にて行った。

■ 2015 年度 生活支援生　総数：51 名

（うち 5 名は（※）READY FOR 収益により、7 月より追加で支援）

■ 支援金総額 ： 7,517,608 円 ／ 年 （振込手数料を含む）

■ 1 人あたり ： 5,000 円 ～ 30,000 円 ／ 月

国籍別内訳	ベトナム	20 名	高校 11 名／短大 1 名／専門 2 名／大学 6 名
	ミャンマー	3 名	高校 3 名
	中　国	5 名	高校 4 名 ／ 大学 1 名
	ブラジル	6 名	高校 3 名 ／ 大学 3 名
	ペルー	6 名	高校 1 名 ／ 専門 1 名 ／ 大学 4 名
	ナイジェリア	2 名	短大 1 名 ／ 大学 1 名
	カンボジア	2 名	短大 1 名 ／ 大学 1 名
	日　本 ルーツのある国 ベトナム、中国、ミャンマー、カンボジア、ブラジル、朝鮮、フィリピン	7 名	高校 4 名 ／ 専門 1 名 ／ 大学 2 名

（順不同）

※）5 名の学生を追加で支援 － クラウドファンディング「READY FOR」－

「生活支援プログラム」の応募者が 101 名と例年よりも多く、半数以上を支援できない状況にあった。あと 5 名の高校生を支援したいと思い、インターネット上のサービスを通じて寄付を募ったところ、目標額 60 万円を上回る 90 万 7 千円もの寄付が寄せられた。追加で 5 名の高校生を 9 ヶ月間支援できた他、困窮度の高い 7 名の支援月額を 5 千円増額することができた。

② 生活支援生への対応

ⅰ）面談

夏期研修会にて、参加役員による個別面談の時間を設けた。学業の様子や、進路希望、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。その後事務局内でケースシェアを行い、対応が必要と思われる学生に対しては個別対応を行った。

ⅱ）支援金振込み確認葉書によるサポート

支援金振り込みの案内状と併せて、返信用の振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、日々顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

ⅲ）エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また、支援生の関心や生活状況をよりよく理解することを目的として、エッセイ（800字程度）の提出を義務付けた。一部のエッセイは、支援者や企業、団体、行政機関への報告を兼ね、当会のニュースレターに掲載した。

■ テーマ ： 以下の２つの中から選んで、執筆してもらった。

１）さぽうと２１と関わって、変わったこと
２）今年一番感動したニュース ／ 心に残ったニュース

ⅳ）就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

■ 支給者数 ： 10 名（高校 1 名 ／ 専門 2 名 ／ 短大 2 名 ／ 大学 5 名）
■ 支給総額 ： 300,000 円（1 人あたり 30,000 円）

※ 就職決定が遅かった 2014 年度 支援生（大学 1 名）にも 2015 年 4 月に支給した。

ⅴ）キャリア支援制度（資格試験の受験料支援）

就職などに生かすことのできる資格試験（英検・TOEIC・TOEFL）の受験料を支援する「キャリア支援制度」を、本年度も引き続き実施した。

本制度を開始してから 3 年目となり、学生間での周知も年々進んでいる。本年度は、進学希望の高校 2、3 年生の制度利用者が増えた。

■ 支給者数 ： のべ 15 名（高校 11 名、大学 4 名）
■ 支給総額 ： 82,217 円（英検準 2 級・2 級・準 1 級・1 級、TOEIC）

※ 留学していた 1 名（大学生）にも、2016 年 4 月に 5,725 円（TOEIC）を支給した。

（2）坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）

① 生活支援金の支給〔就学支援〕

東洋熱工業株式会社様からの株主配当金をもとに、主に理系専攻の大学 3 年生から大学院生までのインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者などの子弟に対し、学業推進のための「生活支援金」を支給した。

支援金は、毎月 1 回、銀行振込で支給した。

- ■ 2015 年度 坪井支援生　総数：9 名
- ■ 支援金総額 ： 6,638,357 円 ／ 年 （振込手数料を含む）
- ■ 1 人あたり ： 40,000 円 ～ 70,000 円 ／ 月

国籍別内訳	ベトナム	1 名	大学院 1 名
	ペルー	2 名	大学生 1 名 ／ 大学院 1 名
	アルゼンチン	1 名	大学院 1 名
	ブラジル	1 名	大学院 1 名
	日　本 ルーツのある国 ベトナム、カンボジア、中国	4 名	大学生 4 名

（順不同）

② 坪井支援生への対応

ⅰ）面談

遠隔地在住で、個別対応が必要と思われる学生に対し、夏期研修会中に個人面談を行った。主に家庭状況の変化や、学業の様子などについて聞き取りを行った。

ⅱ）支援金振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージのやり取りを行った。

ⅲ）エッセイの提出

坪井支援生としての学業の成果を知ることと、（Ⅲ）その他 であげる「難民など外国にルーツをもつ若者たちが語る『わたしたちの選択』（個人発表＆座談会）」での発表用原稿として、エッセイ（800～1000 字程度）の提出を義務付けた。提出されたエッセイは、当日のプログラムに掲載した。

＊詳細は（Ⅲ）その他「わたしたちの選択」（ P. 18 ～ 20 ）を参照

ⅳ）就職支度金の支給

原則として正規雇用が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

■ 支給者数：1 名（大学院 1 名）
■ 支給総額：30,000 円

ⅴ）キャリア支援制度

生活支援プログラムと同じ要領で、資格試験（英検・TOEIC・TOEFL）の受験料の支援を実施した。

■ 支給者数：1 名（大学院 1 名）
■ 支給総額：5,092 円（TOEIC）

（3）夏期研修会の実施

親が外国出身者であることや、経済的に困難な状況にある中で、就学・就労の選択肢が限定されがちな支援生の自立を後押しする目的で開催している。来日経緯、年齢、学年、出身地域の異なる参加者が、外国出身者として日頃感じる悩みなどを、同年代の仲間と共有できる機会となっている。

本年度は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成を受け、「外国にルーツをもつ学生の『働き方』発見セミナー」と題し、1 泊 2 日（都内）で実施した。

実施した背景のひとつに、学生が進路選択・就職活動をする際、特に職業選択の知識や情報に偏りがみられることがある。その要因として、狭いコミュニティの中、経済的に困難な家庭で育った学生たちの多くが、ロールモデルとなる「働く人」との出会いが限られてしまい、将来の選択肢を限定的に捉えていることが挙げられる。

そこで多様な職業分野で活躍する社会人の方にお越しいただき、支援生やその他参加者（外国につながる学生）が広く職業を知り、職業選択の選択肢を増やす機会を提供した。

また今回は、坪井支援生（大学 4 年生・大学院生）に運営委員となってもらい、1 日目のアイスブレーキングの企画や、2 日目のグループワークの取りまとめなどの協力を依頼した。支援生同士のネットワーク構築も兼ね、主に E メール等で連絡調整を行った。

■ 実施期間：2015 年 8 月 6 日（木）－ 7 日（金） 1 泊 2 日
■ 研修会場：東京ウィメンズプラザ 視聴覚室・第二会議室（渋谷区神宮前）
東京スポーツ文化館 マルチホール（宿泊兼 ／ 江東区夢の島）
■ 参 加 者：65 名（その他 社会人講師 11 名、当会 OB/OG 6 名）

1日目	1）開会・アイスブレーキング 2）外国にルーツをもつ学生の「働き方」発見セミナー 〔独立行政法人福祉医療機構　平成 27 年度 社会福祉振興助成事業〕 **① 色々な職業を知ろう！** 企業・団体職員の方に「一日出張講師」としてご協力いただき、業界ごとに相談ブースを設営した。参加者は、当会が事前に送付した『講師ご紹介冊子』をもとに訪問先を選び、お話を伺った。 （1 コマ 40 分･計 3 回／質疑応答含む） 学生には、主体的参加を期待し、事前課題として訪問予定の企業･団体や業界について調べてもらい、質問したいことなどを考えてもらった。 各ブースでは、会社や団体の事業内容や、携わっておられる業務内容、在学中に取得しておくべき資格などについてお話しいただいた。 また当会から過去に就学支援を受けた社会人 OB/OG もブースを担当した。外国出身者であることを就職活動でどのように生かしたか、進学のメリット・デメリット、大学・大学院ではどの様なことを学ぶのかなど、自身の経験をもとに話してもらった。 **● 講師派遣にご協力いただいた 企業 ・ 団体 （14 名）** ウェルズ・ファーゴ証券株式会社 ／ 株式会社バイリンガル・グループ 様 ／ 社会福祉士事務所ソーシャルワークス 様 ／ 東武トップツアーズ株式会社 様 独立行政法人国際協力機構，JICA 様 ／ 日本アイ・ビー・エム株式会社 様 ／ 日本アイ・ビー・エム・サービス株式会社 様 ／ 三菱商事株式会社 様 ／ 有限会社上原 空間〇不動産 様 ／ 尾崎 憲子 氏（メイクアップセラピスト）／ AAR Japan［認定 NPO 法人難民を助ける会］／ さぽうと 21 OB/OG　3 名 （五十音順）

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>

② 働くことについて考えてみよう（ 高校生 対象 ）

高校生参加者の多くは、まだ「働くこと」について具体的なイメージが出来ていないため、東京しごとセンター ヤングコーナー様ご協力の下、「職業観」を育成する目的のセミナーを実施した。

働く目的や意味について考えた他、雇用制度及び社会保険に関する知識を得た。また、職業適性診断を通して、自身の適性から職業の分野を幅広く捉えてみる試みなどを行った。セミナー終了後は、「①色々な職業を知ろう！」の会場にて「一日出張講師」の方からお話を伺った。

</td></tr>
<tr><td>

３）個別面談 ／ さぽうと２１ OB/OG に聞く！・ゲーム大会

参加役員による個別面談を行い、学業の様子や進路、家庭状況に関する変化などについて聞き取りを行った。

面談時には、新たに 3 名の社会人 OB/OG が駆けつけ、「OB/OG に聞く！」「ゲーム大会」などを開催した。職場での様子や、就職活動での経験、英語の勉強法や試験対策など、後輩からの幅広い質問に答えてくれた。

</td></tr>
<tr><td>２日目</td><td>

４）グループワーク「目標設定シート」

運営委員を務める坪井支援生を中心に、グループごとに１日目の振り返りを行った。

また坪井支援生がアドバイザーとなり、進路選択・就職活動に向けて、自身の短期目標を決める「目標設定シート」を完成させた。

</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>支援生

感　想</td><td>

・大人になってからのことをたくさん話してくれてありがとうございました。特に、外国人が日本の仕事をするのは難しいと思っていたのですが、意外とたくさん仕事があって驚きました。（ベトナム・高校）

・メーカーを中心に就活していますが、色々な業界の話しがきけて初めて知ったことが多くあり、とても興味深かったです。（カンボジア・短大）

・親とかまわりの人は、みんなレストランとか工場でアルバイトしている人だけだから、会社で働いている大人から話を聞けて、こんな世界もあるんだなと思った。（ブラジル・専門学校）

</td></tr>
</table>

（4）学習支援室

① 日本語教室、パソコン教室、学校教科補習教室

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語力を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。これまでミャンマーにつながる方々が受講者の大半を占めていたが、コンゴ、エチオピア、シリア等、他の地域出身の受講者がみられるようになった。

■ 開 催 日：毎週 土曜日 10 時 ～ 18 時
（必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した）

■ 開催場所：さぽうと２１事務所会議スペース並びに難民を助ける会事務所

■ 受益者数：2,546 名（のべ）

■ 稼働ボランティア数：2,275 名（のべ）

■ 登録受講者数：約 80 名（うち今年度新規登録者 42 名）6 歳 ～ 75 歳
ミャンマー以外は各 1、2 名（ベトナム、スーダン、元中国、コンゴ、エチオピア、その他）

■ 登録ボランティア講師数：約 80 名（うち今年度新規登録者 49 名）
＊ 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

■ 進 学
大　　学　1 名（ミャンマー1 名）
専門学校　1 名（ミャンマー1 名）
都立高校　4 名（ミャンマー2 名、ベトナム 1 名、コンゴ 1 名）
私立高校　1 名（ミャンマー1 名）

■ 日本語能力試験
N1 合格 1 名、N2 合格 2 名、 N3 合格 3 名

■ その他
看護師国家試験 1 名

② 受講者、ボランティア講師向け行事、その他の取り組み等

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、様々な行事を実施した。また、通常の学習支援室事業に加えて日本語特別支援を実施した。

5 月	初旬 ～	● 日本語特別支援：コンゴからの呼び寄せ家族 5 名中心に実施 〔 文化庁委託事業の一環として 〕
6 月	27 日 ～	■ 七夕短冊 作成
7 月	18 日	■ ボランティア会議＋講演会＋交流会（参加者：35 名） 講 師：景山 宙 氏（東京工業大学大学院在学、幼少時に中国から来日） 「私の 25 年、悩み・葛藤・期待-アイデンティティの変遷とともに-」
8 月	1 日	■ 親子向け進学説明会実施（参加者：11 名） 〔 東京パチンコボランティア基金 助成 〕
10 月	3 日、4 日	■ グローバルフェスタ参加（展示、飲食ブース出展）
	2 日～28 日	● 日本語特別支援：シリアからの呼び寄せ家族（妻）1 名に実施（さいたま市までの出張指導・全 60 時間）
12 月	26 日	■ クリスマスランチ会（企画実施：カフェプロジェクトチーム）
1 月	16 日	■ ボランティア講師顔合わせ会（参加者：55 名）
	10 日～31 日	■ 書き初め（さぽうと２１事務所にて展示）
	31 日	■ 日帰りバス旅行（参加者：83 名） 訪問先：千葉県／南房総仁右衛門島、館山城
2 月	7 日	■ 勉強会 ① 「日本語教室での「対話」を考える～『にほんごこれだけ！』を使って～（参加者：27 名） 講 師：岩田 一成 氏
3 月	13 日	■ 勉強会 ② 「日本語教室での「対話」を考える～『にほんごこれだけ！』を使って～（参加者：26 名） 講 師：岩田 一成 氏
	26 日	■ 学習発表会（参加者：67 名（発表者 42 名を含む））

グローバルフェスタ

日帰りバス旅行

③ 委託事業、助成金受託事業等の実施

ｉ） 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

■ 事 業 名：「外国人住民・日本人住民　共育ち日本語教室展開事業
「安心・安全を基盤に、安定と成長に向かって！」を合言葉に ～

■ 実施期間： 2015 年 4 月 13 日 - 2016 年 3 月 20 日

■ 目　　的： 日本に暮らす外国人住民（とくに難民）が「安心」「安全」を確保し、さらに個々の「安定」「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していけること。

■ 運営委員会： 高橋 敬子（委員長）、岩田 一成、大森 邦子、奥原 淳子、蓼沼 憲子、長崎 清美、羽毛田 恵美、LIA CING LAM MANG、矢崎 理恵、長島 みどり

■ 事業決算額： 2,974,016 円

■ 事業内容： 以下の３つの取り組みを企画、実行した。

● 取組１−１：「日本語教室（難民のための体験型初級日本語講座）」の設置運営

（１）体験を通して学ぶ初級日本語講座（春夏・集中講座）

期　間：2015 年 5 月 12 日 ― 2015 年 8 月 29 日（1 回 2 時間半×63 回＝157.5 時間）
＊ヒアリング 1 日を含む

場　所：さぽうと２１事務所会議スペース・にほんごタウン

受講者の総数：11 名（国籍：ミャンマー5 名、コンゴ 5 名、ギニア 1 名）

指導者：ディラン恵子 氏 ／ 指導補助者：羽毛田 恵美氏

特　徴：「体験」を中心にすえた初級日本語講座を実施した。来日直後の呼び寄せ家族 5 名が受講者の中心であり、短期集中の必要性が高かったため、週に 4 回、全 63 回にわたる講座とした。

（２）体験を通して学ぶ初級日本語講座（秋冬講座）

期　間：2015 年 10 月 10 日 ― 2016 年 3 月 5 日（1 回 3 時間×20 回＝60 時間）
＊3 月 12 日にヒアリング実施

場　所：さぽうと２１事務所会議スペース・にほんごタウン

受講者の総数：8 名（国籍：ミャンマー4 名、シリア 1 名、エジプト 1 名、ガーナ 1 名、パレスチナ 1 名）

指導者：ディラン恵子 氏 ／ 指導補助者：高梨 玲依氏

特　徴：「体験」を中心にすえた「体験型初級日本語講座」を実施した。体験型講座の進め方を共有するために、「実例集」をまとめた。

● 取組１−２：「生活力向上のためのワークショップ～『健康』、『生活知識』、『防災』をテーマに～」の設置運営

期　間：2015 年 5 月 2 日 － 2016 年 3 月 12 日（1 回 1 時間半～2 時間×9 回）

場　所：さぽうと２１事務所会議スペース

受講者数：21 名～46 名（＊学習支援室ボランティアも含み、国籍はミャンマー、ベトナム、コンゴ、エチオピア、日本）

各回テーマ：「知っておきたい日本の税金」「知っておきたいわが家の教育費」「知っておきたい確定申告」「高校への進学」「歯の健康」「眼の健康」「マイナンバー制度」「防災」

講　師：羽場 真美 氏（ワーカーズ・コレクティブ生活クラブ FP の会）、丸山 進一郎 氏（品川歯科医師会）、佐野 研二 氏（あすみが丘佐野眼科）小野 慎太郎 氏、横田 剛 氏（品川区 企画部 情報推進課 番号制度担当）、平松 瑠弥 氏、小松 恵理 氏（品川区 防災まちづくり部 防災課担当）、小倉 丈佳 氏（NPO 法人プラス・アーツ）　等

特　徴：日本語力の向上だけでは対処できない事態にも備えることができるようになることを目標として、生活関連のテーマで参加型ワークショップを実施した。今年度は特に、「健康」、「生活知識」、「防災」に対する意識を高めることを目標とした。専門家を招き、全回ビルマ語通訳付き講座とした。

● **取組２：日本語教育を行う人材の養成・研修**

「日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修」とし、2 講座を実施した。

【 スキルアップ講座編 】

日本語教室ボランティアのためのスキルアップ講座

～「読み教材」を知る、使う、創る～

期　間：2015 年 10 月 18 日 － 2016 年 1 月 24 日（1 回 2 時間半×8 回＝20 時間）

場　所：さぽうと２１事務所会議スペース

受講者総数：26 名

ナビゲーター：岩田 一成 氏、奥原 淳子 氏、長崎 清美 氏

講　師：上記ナビゲーター3 名、浅野陽子氏

特　徴：「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることをねらいとして、参加型講座を実施した。今年度は「読むこと」をテーマに、「読み教材」を「知る」「使う」「創る」という３つの活動を柱に進め、まとめとして実際に「読む」活動に挑戦した。

【 理解を深める講座編 】

「一市民として学び、考える『難民』のこと～当事者の言葉を紡ぎながら～」

日　時：2016 年 2 月 28 日（日）10 時～17 時 00 分

場　所：さぽうと２１事務所会議スペース

受講者の総数：52 名

講　師：大原 晋 氏（公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課長補佐）
明石 純一 氏（筑波大学 人文社会系 准教授）
大森 邦子 氏（社会福祉法人 日本国際社会事業団 常務理事）
条約難民当事者 2 名（アンゴラ出身、イラン出身）
インドシナ難民当事者 2 名（ベトナム出身）

特　徴：条約難民、インドシナ難民 4 名にご協力いただき、「インドシナ難民」「Resettlement」「条約難民」についての講義と、当事者の発信を織り交ぜた講座とした。

● 取組３：日本語教育のための学習教材の作成

期　　間：2015 年 7 月 12 日 ― 2016 年 3 月 15 日

作成教材：「日本語力も生活力も向上させる」ことを目標として、３種の教材の作成に着手した。

① 「生活力向上応援 BOOK “知っておきたいシリーズ”」

② 「体験型初級日本語講座実例集」

③ 「小さいけれど大切な日本の習慣」

主な作成者：ワーカーズ・コレクティブ生活クラブ FP の会、羽毛田 恵美 氏、高梨 玲依 氏、矢崎 理恵、長島 みどり

特　　徴：①「生活者」である外国人住民が“知っておいた方がよい”、もしくは“知っておくべき”ことがらをとりあげている。生活関連の講座等で利用可能な振り仮名つきのパワーポイント資料と、やさしい日本語での解説文をつけた冊子を用意。解説文は初中級の読解教材としても利用可能である。

② 実際に行った体験型初級日本語講座の授業の流れや利用教材を気軽に実施できるようにテーマごとに「授業の流れ」や「語彙集」、「ワークシート」を備える実例集とした。「支援者が見るページ」「学習者と一緒に見るページ」「学習者のページ」で構成されている。

③ 日本で生活するときに、人間関係を円滑にするために知っていると役に立つ様々な習慣をわかりやすく説明している。初級読解教材としても利用可能。

ⅱ） 東京パチンコ・ボランティア基金

■ 事　業　名：「難民子弟のための進学サポート基盤づくり事業」

■ 事業決算額： 300,000 円

■ 事 業 内 容： 以下の２つの取り組みを企画、実行した。

○ 難民親子のための進学説明会「高校への進学」の開催

■ 日　時： ８月１日（土）

■ 場　所： さぽうと２１事務所会議スペース

■ 講　師： 矢崎　理恵

■ 参加者： 難民親子 10 組
■ 内　容： パワーポイントデータを用いての高校進学についての説明
ビルマ語通訳付き

○「進学応援 BOOK」の作成

■ 本冊（やさしい日本語・全ルビ付）全 24 ページ
同ビルマ語版・同フランス語版

■ 内　容：「日本の学校制度」「公立・私立の学費」「志望校選びのポイント」
「受験制度」「受験の準備」「受験生と保護者の心得」等

④ その他

ｉ） 他機関との連携強化

■ 大正大学 人間学部 人間環境学科 子ども文化・ビジネスコース への協力
4 月 ～ 5 月　実習生受け入れ（1 名）
6 月　大学 2 年生を対象に当会の事業説明
1 月　卒業論文口述諮問・WS 関係者拡大会議出席

■ 文部科学省選定「大学間連携共同教育推進事業」・国際機関等との
「国際協力人材」育成プログラム（明治・立教・国際大学）への協力
4 月　国際大学 准教授他 1 名 来訪、事業説明と相談
7 月　国際大学 准教授他 1 名 学習支援室見学
8 月　立教大学にて学習支援室事業の説明後、学生 5 名がボランティア活動。

■ 明治学院大学教養教育センター・社会学部 共同プロジェクト
「『内なる国際化』に対応した人材の育成」事業　への協力
10 月　社会学部教授他 3 名 当会訪問
11 月　関係教員向けに当会の学習支援室事業説明と相談
3 月　社会学部教授他 6 名学習支援室見学

※ 日本語学習希望者の受け入れ等に関連して、難民事業本部、新宿日本語学校、赤門会日本語学校等と連携強化

※ ワークショップ等の実施をきっかけに、品川区（企画部・防災まちづくり部等）との連携強化

ⅱ） 学習支援室見学受け入れ

・久光製薬株式会社 社員 1 名（2015 年 8 月 22 日）
＊（６）「企業等のご協力」（ P.21）にあたっての事前視察

・SAKAE ソーシャルカレッジ「国際協力 NGO」連続講座 受講者約 20 名
（10 月 24 日）

・香蘭女学院 高校 3 年生 2 名（2016 年 1 月 23 日）

・株式会社プロジェクト 21　企画事業部（3 月 12 日）

※ その他、マスコミ関係者等の見学があった

ⅲ） 訪問 ・ ヒアリング 等 対応

■ 東京都生活文化局都民生活部「多文化共生の推進事業に関する」調査
生活文化局地域活動推進課 職員他 3 名 来訪（2015 年 8 月 13 日）

■ 公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
今後の協働の可能性について検討　（2016 年 1 月 21 日）

■ 文化庁「日本語教育総合調査」に関するヒアリング調査
文化庁文化部国語課専門官 他 2 名 来訪（2016 年 2 月 8 日）

■ インタナショナル映画株式会社　来訪（2016 年 2 月 25 日）
IOM 委託で第三国定住難民の来日前後の導入ビデオ製作のため

■ 株式会社ファーストリテイリング CSR 部 担当者 来訪（2016 年 3 月 24 日）
ユニクロに勤務する難民の日本語教育に関連して

ⅳ）外部での報告、会議出席 等

■ 東京日本語ボランティア・ネットワーク「総会」出席（2015 年 4 月 26 日）

■ 日本語教育支援促進懇談会：難民事業本部主催（5 月 15 日）
第三国定住難民の退所後の日本語教育支援関係者による懇談

■ 在住外国人支援のための合同連絡会議：東京都生活文化局主催（6 月 19 日）

■ 文化庁地域日本語教育研究協議会にて発表（宮城県／11 月 7 日）
・第 2 分科会　日本語学習ポートフォリオと日本語能力評価の実践」報告
・ポスターセッション　発表（動画教材作成・ワークショップについて）

■ 自治体国際化協会主催　地域国際化ステップアップセミナーにて発表
（京都府／11 月 18 日）

■ ＵＮＨＣＲによる難民高等教育プログラム説明会（11 月 29 日）
次年度から、受験者全員が「日本留学試験」を受験することになったと通達

ｖ） ボランティア ・ 受講者による勉強会やクラブ活動への対応

ボランティアや学習者が主体的に行うイベントやクラブ活動に関する相談を受け、必要に応じて場所の手配等。現在「ギタークラブ」「さぽうとカフェ」の 2 グループが活動中。

Ⅱ. 生計困難者に対する相談事業

（1）相談事業の実施

原則として、日曜祝日を除く 10 時 ～ 18 時、電話、面談、E メール、当会ホームページのお問い合わせフォームより、相談を受け付けた。

■ 相談件数 ： 142 件

具体例	・奨学金や、行政による就学資金の貸付情報の提供
	・医療機関への同行や、通訳の要請、医療費補助の申請方法の案内
	・日本語学習希望や、居住地近くの日本語教室の案内
	・ハローワーク同行、各種手続き書類の書き方
	・人材紹介の希望や論文執筆のための取材希望　　など

（2）緊急経済支援

難民および庇護希望者支援団体の連合体である「なんみんフォーラム(FRJ)」の加盟団体と連絡調整を行い、庇護希望者が必要な支援を受けられるよう協力した。

緊急支援金の給付・貸付は、本年度は該当者なし。

（3）東日本大震災関連支援事業

震災発生直後からご支援くださっているサンキョー株式会社様をはじめとする皆様のご寄付により、本年度も事業を継続した。詳細は、別冊の『活動報告書』を参照。

（4）職員研修の実施

日頃より、行政や専門家、協力団体との関係を深めておくこと、また相談対応の質的な向上を目指す目的で、各種研修会・意見交換会等へ出席した。

ｉ） 在住外国人支援のための東京都合同連絡会議への出席

都内の外国出身者を支援する団体･学校との合同会議（東京都主催）に出席した。

ⅱ） 関東弁護士連合会主催の懇談会への出席

「国際家事問題」をテーマに、行政・国際交流協会等の職員や外国人相談員と、弁護士との懇談会に出席した。

ⅲ） 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）主催の意見交換会への参加

フィリッポ・グランディ国連難民高等弁務官の来日に伴い開催された国内のNPO/NGO 団体との意見交換会に参加した。

ⅳ）「外国につながりを持つ子どもたちへの学習支援（基礎編）」への参加

外国籍児童の学習支援に関わる団体や行政の職員を対象とした研修に参加し、講義や実地研修等を通して学習支援のあり方について理解を深めた。

ⅴ）講演会「難民と精神障害」（野田文隆先生 めじろそらクリニック）への参加

「難民・移住者のメンタルヘルス」をテーマに、難民・移住者が抱えるこころの問題に関する理解を深めた。

Ⅲ．広報活動

日頃、当会の活動をご支援くださっている会員・寄付者の方へのご報告と、新規支援者の獲得を目的に、以下の活動を実施した。

① 広報物の作成など

ⅰ）小冊子『 難民だった僕は　今、日本人として働いています。』作成
〔独立行政法人福祉医療機構 平成 27 年度 社会福祉振興助成事業〕

次頁にある「難民など外国にルーツをもつ若者たちが語る『わたしたちの選択』(個人発表＆座談会)」の広報と、定住外国出身者への理解を促す目的で資料を作成。座談会で登壇した社会人他、日本に定住する外国出身者の声を中心に掲載している。

1,000 部作成し、上記イベントの参加者や、主に CSR 活動に取り組んでいる企業、関係団体等に発送した。

ⅱ）ニュースレターの発行

広報誌『さぽうと２１Newsletter』を下記のとおり発行した。2015 年度支援生の紹介、助成を受けて実施した夏期研修会をはじめ、各種行事のご案内並びに報告、また指定でご寄付を頂戴している東日本大震災関連支援事業や文化庁委託事業の実施報告などを掲載した。

なお各号は、会員・寄付者、CSR 活動に取り組んでいる企業、関係団体宛に約 700 部を発送した。

■ 発行月：Vol.57／2015 年 7 月、Vol.58／12 月　＊ Vol.59／4 月 発行

ⅲ）ホームページの更新

当会主催・共催の行事や研修、支援生の募集など、当会の活動や難民等の定住外国出身者の状況について知っていただくこと、また定住外国出身者によりよい情報提供を行うことを目的に、ホームページの更新を随時行った。

② イベントなどの開催

ⅰ）「難民など外国にルーツをもつ若者たちが語る『わたしたちの選択』」（個人発表＆座談会）の実施

〔 独立行政法人福祉医療機構 平成 27 年度 社会福祉振興助成事業 〕

来場者に「留学生」以外の外国出身の学生が日本にいることを知ってもらい、彼らの進路選択にかかわる社会的課題について共に考える場として開催した。また、日本に定住する外国出身生徒にも参加を呼びかけ、発表者の報告を通して、自身の進路選択に対する意識を高めてもらった。

昨今の難民問題への関心の高まりに加え、交流のある外国人支援団体や、登壇者にも広報を依頼した結果、当日は、高校生以上の外国出身生徒や、学校、行政・地域の国際交流協会、日本語教師、メディアなど、112 名が参加した。

第 1 部の「個人発表」では、坪井支援生（大学 4 年生・大学院生）9 名に、自身の研究分野と今後の進路について発表してもらった。

第 2 部の「座談会」では、条約難民、インドシナ難民の子弟、日系三世など、様々な経緯で日本に暮らす外国出身の社会人（当会 OB/OG）に登壇してもらい、定住外国人を取り巻く課題についてディスカッションを行った。
特に「外国にルーツをもつ会社員」として働く中で感じる「違和感」や帰化、国籍や名前に対するとらえ方など、自身が現在おかれた状況の中で経験すること、考えることを中心に発信をしてもらった。

- ■ 実施日時：2015 年 12 月 19 日（土） 13 時半～17 時（17 時～ 交流会）
- ■ 会　　場：東洋熱工業株式会社 本社 3 階 大会議室（東京都中央区京橋）
- ■ 参 加 者：112 名

第 1 部 個人発表	自身の研究内容について
	1. 手話認識システムの研究 （元ベトナム／東京理科大学 工学部）
	2. QGC（クォーク・グルーオン・プラズマ）修士課程で取り組む研究 （ペルー／静岡大学 理学部）

3. 稲におけるオーキシン生合成酵素 OsYUCCA のリコンビナントタンパク質の精製とその機能解析 （元カンボジア／東京大学大学院 先端生命科学）

4. 希少疾患のスプライシング異常のメカニズム解明
（ペルー／京都大学大学院 医科学）

小学生の時から憧れた物理学の世界！
大学院で宇宙工学を研究予定。

植物性タンパク質に関する論文で
高い評価を得ることができました！

自身のルーツなどについて

5. 外国にルーツをもつ学生の「働き方」
（元ベトナム／慶應義塾大学大学院　開放環境科学）

6. 中国残留邦人としてのルーツを生かす行政官を目指して
（元中国／立命館大学大学院　公共政策）

7. 外国にルーツを持つ人々の言語環境
（アルゼンチン／首都大学東京（大学院） 人間科学）

8. インドシナ難民であった祖父・親が日本に定住するまでの軌跡
（ベトナム／東北大学大学院 化学）

9. 日系定住者を取り巻く環境と、自身の就職活動について
（ブラジル／筑波大学大学院 物性・分子工学）

<table>
<tr><td></td><td>

「多言語表示」は、2020 年の東京オリンピックにも役立ちます！

4月から社会人。グローバル化が進み、進学や就職を志す学生も増えています！
</td></tr>
<tr><td>第 2 部

座談会</td><td>
『 わたしたちの選択 』
～ ルーツとの向き合い方・ルーツと仕事・「日本人になる」という選択 など ～

「多国籍の学生が多い大学に入学し、そこで『人は国籍ではないんだ』と気づいたんです。日本国籍・ブラジル国籍ではなく、自分も周りと同じような人間なのだと捉えることができるようになりました。」 ・・・
「『大学に進学した外国出身者』ということで、どこの地域でも『ロールモデルとしてみんなの前でお話してください』とお願いされることが沢山あります。『日本との架け橋に』と言われますが、自動的にそんな人材にはなれません。架け橋になるには相応に努力が必要です。」 ・・・

■ 進行役：宮ヶ迫 ナンシー 理沙 氏
■ 語り手：柳瀬 フラヴィア 智恵美 氏 ／ グエン ニャット ナム 氏
オルム リサ オゲチ 氏（スカイプ） ／ 今見 ムスターファ 氏
</td></tr>
</table>

ⅱ）チャリティ・イベントの共催（AAR との共催）

AAR との共催で、下記の通りチャリティコンサートを開催。

■ チャリティ朗読コンサート〈地雷ではなく花をください〉【入場者 1,450 人】
日程：2015 年 4 月 29 日(水・祝)／会場：サントリーホール（東京都港区）
出演者：萩原麻未、宮沢りえ 他

■ Dance and Music for PEACE〈 真夏の夜のゆめ 〉【来場者 1,360 人】
日程：2015 年 8 月 22 日(土)／会場：新国立劇場オペラパレス（東京都渋谷区）
出演者：デヴィ・スカルノ、加藤タキ、市川学、大島寿子、市川久、
石原正幸、佐藤美枝子、林美智子、宮里直樹、河野克典 他

ⅲ）グローバルフェスタ 2015 への出展

国際協力への関心を深めてもらう目的で開催されている「グローバルフェスタ」に、学習支援室ボランティアと受講生が中心となり、飲食と展示ブースを出展した。

■ 開 催 日：2015 年 10 月 3 日（土)・4 日（日）
■ 開催場所：お台場・センタープロムナード公園
■ 出展内容：ミャンマー料理の「モヒンガ（麺料理)」の提供、同国の民族衣装である「ロンジー（巻きスカート)」の着付け など。

③ 外部での活動報告

ⅰ）川崎市教育委員会主催　高津市民館「平和・人権学習Ⅲ」(2016 年 2 月 7 日）
ⅱ）明治学院大学心理学部付属研究所 研究プロジェクト実施に向けた情報交換会（3 月 27 日）

Ⅳ. その他

（1）パートナーシップ

なんみんフォーラム(FRJ)への参加を通して、支援を必要とする方に関する情報の共有や各団体との連携を行った。

（2）団体活動を充実化させるためのご支援

当会の各事業や活動を充実させるために、下記のとおり支援を受けた。

① 企業等のご協力による団体活動の充実

ⅰ）日本アイ・ビー・エム株式会社　コミュニティー・グランツ・プログラム

「学習支援室」でボランティア講師として活動してくださっている社員の方を通じて、団体の活動を充実するための物品購入等のための資金援助を受けた。

■ 助成金額：210,000 円

■ 使　　途：教室活動に利用するためのホワイトボード、情報共有のための大型掲示板の購入及び、当会ホームページ「教材バンク」全面リニューアル（2016 年 4 月 6 日 公開）

ⅱ）久光製薬株式会社　基金「ほっとハート倶楽部」

本基金は、社員の皆さまからの毎月の寄付金に加えて会社からも同額を拠出するもので、毎年、国内外で活動する全国の NPO や市民団体を 50 団体上支援している。本年度は全国 55 団体を支援され、当会もそのうちのひとつに選ばれた。

■ ご寄付額：100,000 円

ⅲ）クラウドファンディング「READY FOR」

「生活支援プログラム」の応募者のうち、半数以上を支援できない状況にあったことから、インターネット上のサービスを通じて寄付を募った。

■ ご寄付額：907,000 円（目標額：600,000 円）

■ 使　　途：5 名の高校生を追加で 9 ヶ月間支援できた他、困窮度の高い 7 名の支援金額を月 5,000 円増額することができた。

② 助成金事業

ⅰ）平成 27 年度 文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

＊詳細は（５）学習支援室（P.10 ～ 13）を参照

ⅱ）平成 27 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

＊詳細は（３）夏期研修会（P.5 ～ 7）、（Ⅲ）その他（P.18 ～ 20）を参照

（3）各種調査の実施

2011 年の内戦に端を発したシリア危機が、その後「シリア難民問題」に発展する過程の中で、当会では、AAR や難民審査参与員有志のネットワークを通じ、今後の支援体制のあり方等について検討するための各種調査などを実施した。

① 地中海密航船人道危機調査

イタリアやギリシャなどの地中海沿岸諸国に、シリア、アフガニスタンなどの国々から約 10 万人（＊2015 年前半時点）が密航の形で逃れているという状況を鑑みて、AAR と合同で調査団を派遣。国連機関や赤十字、現地 NGO を訪問し、密航してくる人々の現状と支援体制について聞き取りを行った。

7 月 10 日に、AAR が本調査に関する報告会を開催した。（会場：AAR 東京事務所）

■ 期　間：2015 年 6 月 21 日（日） - 30 日（火）
■ 調査員：山田 寛 氏（元読売新聞アメリカ総局長／当会理事）、水鳥 真美 氏（元在英国日本大使館公使／AAR 理事）、五十嵐 豪 氏（AAR 事務局）

② 難民審査参与員 有志会

昨今の難民認定申請者の増加に伴い、難民審査参与員の有志が、難民認定制度や、シリアからの難民認定申請者への対応などに関して意見交換を行った。

11 月 18 日には、メディア関係者を囲んでの会合を開催した。

（4）理事会 ・ 評議員会

本年度（平成 27 年度）は、定例理事会・評議員会を下記の通り開催した。

■ 第 1 回
評議員会：2015 年 5 月 26 日（火） 10 時 ～ 11 時
理 事 会：2015 年 5 月 26 日（火） 11 時 ～ 12 時

■ 臨 時（ 理事長選出 ）
理 事 会：2015 年 6 月 1 日（月）10 時 ～ 11 時

■ 第 2 回
評議員会：2016 年 3 月 24 日（木） 11 時 ～ 12 時
理 事 会：2016 年 3 月 24 日（木） 12 時 ～ 13 時